

# 第42回 全日本中学生水の作文コンクール 和歌山県入賞作品集

日高川

和歌山県

表紙の写真『日高川』（和歌山県林-ル-グ フォトイブ ラ-より）

日高川は、和歌山県最高峰龍神岳に発し、御坊市で紀伊水道に注ぐ、延長 **115km** の日本一長い二級河川です。

春から秋まで魚釣りや川遊びが楽しめ、特に夏は家族連れや若者で賑わいます。また、安珍清姫伝説で、蛇と化した清姫が泳ぎ渡った川として知られ、上流には美人の湯として有名な龍神温泉があります。

# あ い さ つ

水は、あらゆる生命の根源であり、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支える限りある貴重な資源です。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

こうした中、水を私たち共有の財産と位置づけるとともに、国民の皆様には、健全な水循環の重要性についての理解を深めていただくため、毎年八月一日を「水の日」と定め、様々な関連行事が行われています。

この一環として、和歌山県では、中学生を対象に、昭和五十四年から続く「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しており、本年は、三五一編の応募をいただきました。いずれの作品も、「水について考える」というテーマにふさわしく、日常生活での体験から学んだことや、海外の水事情に視点をおいたもの等、つい忘れがちな水の大切さ、有り難さについて考えさせられる作品で、水を大切にしようという思いがよく伝わってまいりました。

このたび、入賞作品十八編を作品集にまとめましたので、ご家庭や学校でご活用いただき、水についての関心をさらに高めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

令和二年八月七日

和歌山県企画部長 田嶋 久嗣

もくじ

優秀賞

本当に大切なこと

和歌山県立田辺中学校

三年

石川

更紗

・  
・  
・

1

「水の惑星を守る」

和歌山県立向陽中学校

二年

井端

加奈

・  
・  
・

3

水への感謝

和歌山県立田辺中学校

二年

若勇

昌聖

・  
・  
・

5

入選

水の大切さ

和歌山県立向陽中学校

二年

上野

有彩

・  
・  
・

7

災害時の水

和歌山県立向陽中学校

二年

谷口

楓

・  
・  
・

8

「普通の暮らし」を見つめてみたら

串本町立西向中学校

三年

谷端

沙衿

・  
・  
・

9

水や自然を大切に

すさみ町立周参見中学校

一年

津村

悠愛

・  
・  
・

10

一滴の力く命をつなぐく

和歌山県立向陽中学校

二年

三好

莉央奈

・  
・  
・

11

ダムの役割について

すさみ町立周参見中学校

一年

石垣

結菜

・  
・  
・

きれいな水をつくる人々

和歌山県立向陽中学校

二年

岡崎

咲

・  
・  
・

私が信じる水の可能性

海南市立下津第一中学校

三年

川乗

楓菜

・  
・  
・

水と共に生きる

海南市立下津第一中学校

一年

武田

菜緒

・  
・  
・

多忙な水

和歌山県立田辺中学校

二年

中村

柚月

・  
・  
・

水と生きる

和歌山県立加太中学校

二年

原田

結菜

・  
・  
・

色々な顔を持つ水

和歌山県立田辺中学校

一年

村上

すみれ

・  
・  
・

紀の国の農業を支える用水

和歌山県立向陽中学校

二年

矢倉

陽斗

・  
・  
・

私達にできる事

和歌山県立田辺中学校

一年

山中

杏華

・  
・  
・

命の水

和歌山県立田辺中学校

三年

吉田

彩良

・  
・  
・

(掲載順序は五十音順です。)



## 優 秀 賞

# 本当に大切なこと

和歌山県立田辺中学校 三年

いしかわ さらさ  
石川 更紗

た。私たちの先祖らは汲んだ水を神棚にお供えしてから使っていたということを知ったからである。日本人にとって水とは神聖なものであったのだ。

とはいえ、私たちの祖先らも今より不便ではあるが、井戸から比較的 안전한水を得ることができていた。しかし、遠く離れた南アフリカで 안전한水を確認するのはそう容易くはない。場合によっては自宅まで一日かけて水を運ばなければならぬ人々もいる。その運び手の多くは子供達だ。数十リットルの水をバケツ等に入れ、頭や肩に載せて運ぶのだという。当然、頭上に載せ歩くことにより背骨が圧迫され、成長に支障が出てしまう。だが、彼らには汚染されていない 안전한水を手に入れるため、やむを得ないという。それほどまでに水は必要不可欠なのだ。

蛇口を捻る。現在の日本における日常生活では、その行為だけで 안전한水が手に入る。それ自体はとても便利で良いのだが、それが近年、当り前になってきていると感じる。果たして水とは本来どういったものなのか。

多くの神社には手水舎がある。手水舎では参拝者が身を清めるために、手や口を濯ぐのだが、幼い頃私は何故石鹸を使わないのだからかとても不思議に思っていた。水には木の葉も浮いていたし、何より石鹸を使った方が清潔であると思う。しかし、最近になって手を洗うのではなく、清めているということに意味があると気づい

そもそも私たちと水とは大きく影響し合っている。普段私たちが食べる料理の食材も、もともとは一つの生命なのだ。海を泳ぐ魚や牧場で飼育されている牛や豚、畑の野菜等も水なしには生きてられない。それは勿論、私たち人間も同じだ。六十兆をも超える細胞成分の約九十パーセント、人体の約七十パーセントが水でできているのだ。それを他の生命から、又は水を飲むことによって、日々排出される水分を補い、循環させることにより維持している。無論、断食など数十日食を絶つても良質な水があれば生きられるというの

も納得がいく。だがそれとは逆に、悪質である水が人体に害を成すということも理解できる。体の多くを水が占めている人間や他の生き物にとって、水の良し悪しが生命を大きく左右するのだ。

普段当たり前に出てくる水道水も限りある資源であり浄水等数々の過程をふんでいる。使用された後も、汚れた水をそのままにせず再び綺麗にすることで、安全な水が保たれている。このように様々な工程を経て初めて私たちの元へと届いているのだ。安全な水がいっつも出てくるというのは、決して当たり前な事ではなく、とても価値あることである。

このように、水とは本来私たち人間にとってかけがえないものなのである。これからも生命が生きのびる為には、水を守り続けることが重要なのだ。私たちに日本人が神聖なものとする水は、生命にとつて無くてはならないものなのだ。水と向き合う上で、本当に大切なこととは何だろう。これからも私たちは水と共存し、向き合い続けなくてはならないと思う。

## 優 秀 賞

# 「水の惑星を守る」

和歌山県立向陽中学校 二年

いばた かな  
井端 加奈

母に尋ねてみた。すると「上高地のトイレは有料なんやで。」と言われた。私はそれだけでは分からなかった。頭の中で「有料のトイレ」と「上高地のきれいな水」は、どれだけ考えても結び付かなかった。

その後、母は教えてくれた。「上高地では、トイレに入る前に、百円玉を入れてから入るんよ。そのお金を使って、上高地をきれいにしてるんやで。」と。トイレの種類も、バイオ式や浄化循環式など、環境の配慮がされているそう。他に富士山などでも、同じような取り組みをしているらしい。また、水にとけない物が入っていたら、スタッフが一つずつ取り除いて下山するそう。

このことを知った時、私は不思議に思った。水を使うのも、水を汚すのも、そして、水をきれいにするのも人間だ。そして、今の日本では、「使う役」と「汚す役」と「きれいにする役」に分かれているのではないかと思う。使う役、汚す役には、きっと一億二千万人つまりほぼ全員が属しているだろう。それに対して、きれいにする役には、果たしてどれだけの人が属しているのだろうか。浄水場、河川処理場で働く人や、ボランティアで清掃をしてくれている人など、ほんの一部の人だけではないだろうか。

日本では今、蛇口をひねれば安全な水が出てくる。私たちは何の努力もせず、水を手に入れている。しかし、世界に目を向けて

耳をすませば、川のせせらぎが聞こえてくる。生い茂る緑に囲まれて、美しい、エメラルドグリーン清流が、目の前を流れている。

数年前、家族で長野県の上高地へ行った。まだ夏の暑さが厳しい八月だった。朝から見えた山も、道端で見かけた草花も、どれも美しかった。しかし、何よりも美しかったのは水だった。私は、その澄んだ水に心を打たれた。当時はただただ感動していた。しかし、今になって、疑問に思うことがある。なぜ、上高地の水は、あれほどきれいだったのだろうか。



みると、水道水が飲める国はわずか十五ヶ国。それどころか、水を汲みに、毎日何時間も歩く子供もたくさんいる。このような国では、一日に使う水の量は、一人あたりわずか五十リットル以下だ。対して、私は約二百リットルも使っていた。日本人の平均より少ない私でも、ほど遠い数値だ。

では、水を使い、水を汚している私たちは、どうすればよいのだろうか。私は、まずは知ることが大切だと思う。水のこと、日本のこと、世界のことを。水は美しい、生きていく上で必要不可欠であるということ。日本では、大量の水を使っているということ。世界では、安全な水を飲めず、亡くなってしまう人もたくさんいるということ。

次は、行動に移さなければならない。水を出しっぱなしにしないというような、小さいことでも、意外と難しい。意識しなければ、ついつい忘れてしまう。この、小さな動きをみんなが当たり前に行えるようになれば、少しずつ変わっていくだろう。変化が目に見えるようになる頃には、私たちはいないかもしれない。しかし、他人事だと思っはいけない。今の地球は、昔の人々が創ってきたものだ。私たちは、それを、より良くし、未来へと繋ぐ必要があると思う。

地球の未来は、私たちの手に託された。美しい水、自然のある

「水の惑星」を守るために、身の周りのことから改善していきたい。

## 優 秀 賞

# 水への感謝

和歌山県立田辺中学校 二年

わかゆう まさきよ  
若 勇 昌 聖

「ああ、美味しい。」部活が終わった後、急いで水筒に入っている冷たい水を一気に飲む。

失われた体中の水分がリセットされて何とも言えない幸福感に満たされる。お茶や清涼飲料水ではなく、僕は三度のご飯を食べる時も必ず水を飲む。毎日沢山飲んでいるのに、今まで深く水の事を考えずにいた。

当たり前の存在すぎて有り難さも分からなかったのかもしれない。しかし、昨年海外で活動されていたある日本人の「死」をニュ

ースで知って水に対する僕の価値が一変した。その日本人は、中村哲医師である。パキスタンやアフガニスタンで長年に渡って医師として現地の人々の健康や暮らしを守ってきた偉大な人物だ。

中村医師は、最初医療支援に尽力していたが、ある時「いくら治療しても根本的な解決にはならない、不衛生な水を飲む事をやめなければこの国の人々は病気で苦しみ続ける事になるだろう。」と悩み考え「百の診療所よりも一本の用水路」という信念のもと井戸を掘り用水路建設に力を入れる事になった。

七年もの歳月をかけて二十五キロメートルにも及ぶマルワリード用水路が完成した。

清潔な水を手に入れる事ができるようになったアフガニスタンの人々は歓喜に沸き、子供達の感染症も減少していった。

僕は、中村医師のこの活動を通して水は生命の源であり、医療よりも勝る「自然の恵み」である事を改めて知る事ができた。

水があれば作物ができる。作物がとれば人は食べていける。そして栄養がとれば餓死する事はない。実際、中村医師も「医療は無力だ」と言っているように水は「自然の薬」なのかもしれない。幸い僕達の住んでいる日本では、きれいな水がすぐ蛇口から出

てくる。自分は、日本に生まれ、きれいな水をいつでも飲める環境にある事を「感謝」しなければならぬと強く思った。この恵まれた環境そして自然を守るために、僕が今できる事は何だろう……。それをずっと心の中で問いかけた。すぐには答えは出なかった。今このテーマを考えている最中、僕達の住んでいる日本や世界はかつてない状況に直面し混乱している。目に見えない新しいウイルスに怯え、感染しないために学校にも行けなくなった。僕の心の中も不安と悲嘆に沈んでいた。

そんな時、ふと田舎の祖父父母の家の近くにあるきれいな川を思い出した。小学校の頃、夏になるとよく行って遊んだ。小さな滝からはキラキラと輝く透明で澄んだ水が流れ落ち、その下に溜まった水は、エメラルドグリーンのように深く濃く、底にある石も全て見えるぐらい透き通っていた。

僕は、頭の中でその光景を想像した。「ありがとう」と無意識にそう思った。さつきまで沈んでいた気持ちが少し和らいだ気がして、心が癒やされていた。

今は、不要不急の外出はできないけれど、この状況が落ち着いたら、あの川に行って感謝を伝え、ゴミ拾いや掃除をしようと思つた。

外出自粛の今の生活で出来る「節水」をして、水を大切に

しようと思つた。

中村医師のように何十万人もの命を救うことは僕には出来なけれど、今できる節水や自然環境を守るためにどうすればよいか考えて意識しながら行動していきたい。

そして、水から受けた「恩恵」を忘れずに毎日「感謝」の気持ちを持ってこれからの人生「水」と向き合いながらこのすばらしい「自然の恵み」を大切に、未来へと繋いでいきたいと強く思う。

## 水の大切さ

和歌山県立向陽中学校 二年 上野 有彩 うえの ありさ

私たちの地域は三日間断水すると予告されたことがある。その時私の家ではたくさんの水を用意した。スーパーから水を買ってきたり、水道水をポリタンクやペットボトルに入れた。

断水が始まる少し前に水がにがり始めた。普段飲んでいた水道水が飲めない状態になっていたので。私はその時、いつもあたりまえだと思って飲んでた水はあたりまえではなかったんだと思った。

世界には日本のように水道水を飲める国はとて少ない。飲めないどころか水すら近くにない国だってある。何時間もかけてくみに行くにも関わらず、その水はにごっている。私にはそんな生活が考えられない。だって、蛇口をひねればいくらでも飲めるきれいな水が出てくるから。

しかし私はその時初めて水について考えさせられた。結局断水はしなかったのだが、水の大切さを教えてくれた。もし災害が起きて水道水が出なくなったり、トイレが流れなくなったり、どうしたらいいのか考えた。また、家族で災害が起きた時どう行動するのか話し、災害のための用意をする機会ができた。もちろん、その用意の中に水も入れた。

いつも私たちのそばにある水。私たちの生活は水とどれだけつながりがあるか、考えれば考えるほどつながりが見つかると。お料理にお手洗い、飲み水、どれだけ大切かも分かるだろう。

私たちにできること、それは小さいことから大きいことまで色々あると思う。まずはいつも水に感謝するべきだと思う。感謝するだけで水がもっとおいしくなったり、世界の水がきれいになる訳ではない。しかし、水に

対する自分の考えが少しでも変わったたり、水に少しでも興味を持てるようになると思う。

三十年の内に南海トラフ巨大地震がくると予想されている。その時たくさんの人に被害がいくだろう。停電、断水、家がなくなってしまう場合だってある。避難する時に持って行く物はたくさんある。持って行く物が限られている中、水はどれだけ持って行けるだろうか。

私の家は六人家族である。普段水は、一日に一人約200〜300リットル使うといわれている。こんなにも持って行けるはずがない。一日すらもたないかもしれない。これでどれだけ水が大切なものか分かるだろう。普段たくさん使っている水に少しでも感謝の気持ちででてくるだろう。

あたりまえと思われている水。自然災害が起こればすぐにそばからいなくなる。あたりまえだった物がパツと消えた時、私たちはたえられないだろうか。生きることに必死になり必死で水を求めるだろう。自然災害が多く起る日本。自然災害が起きて水があたりまえじゃないありがたい物だったと気づくのではなく、普段から感謝する心を持つておいてほしい。

水にめぐまれている日本。日本だからこそできることがあるかもしれない。そんな事を考えてみるのもいいだろう。

今日も、水道水から水が出る。水はそばにいる。水に感謝しありがたさも実感する。毎日役に立っている水はこれからも役に立ってくれるだろう。

## 災害時の水

和歌山県立向陽中学校 二年 谷口 楓 たにぐち かえで

私の家では、井戸水と水道水を使用しています。基本は井戸水ですが、水道水は使っていないなくても基本料金があるため、植物への水やりなどに使用しています。

そんな、私の家の井戸水は、市の「災害時協力井戸」という、災害時に水を提供することができる井戸に指定されています。地震などの災害が発生し、断水が発生した場合、家の井戸水を地域の人々に提供しなければいけません。

しかし、私の住む地域は、高齢者が非常に多く、自分の家まで水を運ぶことができない人もたくさんいるはずです。また、高齢者は環境の変化にも弱く、少し水が足りないだけでも、重大な事態に発展しかねません。

そのようなことにならないように、私のような子どもや、若くて元気な人々が、高齢者に水を運ばなければいけません。

井戸水をタンクなどに入れて運ぶ際、すぐ近くまでなら若い人が持つて行くことができます。しかし、少し離れた遠い場所だと、重たい水を運ぶのは、若くて体力のある人でも困難です。そこで、台車などを地域で共有することで、重たい水を一度にたくさん、少しの労力で運ぶことができます。

また、スムーズに効率良く運び、地域の住民全員に行き渡らせるためには、その地域の地図もあるといいのではないのでしょうか。地図を活用して役割分担をしたり、時間の配分をすることができます。

しかし、断水が発生してしまうという事は、停電が発生してしまっているかもしれない。停電が発生していた場合、電気で井戸水をくみ上げ

ている井戸は、水をくみ上げることができず、水を提供することが出来ません。

そんな時は、手動のくみ上げポンプです。手動だと、停電中で電気を使うことができないときでも水をくみ上げ、提供することができます。また、私の地域には、自治会館に発電機が数台あります。その電気で、井戸水をくみ上げて提供することができます。

このように、地震などの災害、緊急事態発生時のための準備は十分にできていても、それを知らなかったり、考えたことがなかったりします。学校などでは、避難訓練が行われていますが、地域では避難訓練が行われていないことも多いはずです。

地域での避難訓練の際には、水の使い方や確保の仕方、発電機の使い方、訓練しておかなければなりません。高齢者が多いなどの理由で、避難訓練ができていない地域もたくさんあるでしょう。しかし、高齢者が多いからこそ、難しいからこそ、いざというときのための避難訓練が必要となってくるのではないのでしょうか。

地震などの、緊急事態発生時、私たちのような若者が高齢者に水を運ばなければいけません。また、その水運びをよりスムーズに効率的に進めていくための地図などもあると便利です。そして、何よりも避難訓練です。避難が困難だと想定されるような状況のときこそ、避難訓練を行うべきです。そのときに、水の使い方や大切さを地域などで共有するべきです。

そのような緊急事態発生時、水をどのように確保し、そして、どのように使うのかを考えるとおのずと、普段から水をどのように使わなければならないのか、見えてくるはずです。

## 「普通の暮らし」を見つめてみたら

串本町立西向中学校 三年

たにはた さえり  
谷端 沙鈴

「私は、『普通の暮らし』ができて良かったですね。」

幼い頃、テレビのニュースキャスターが言うのを聞いた。私はそれがどういうことなのか分からなかった。深く考えたこともなかった。「普通の暮らし」って何だろう？と不思議に思っていた。

そんなある日、一つのドキュメンタリー番組を観た。その画面に映っていたのは、私と同じぐらいの子供だった。その子の妹は、汚染された水を飲んで亡くなったという。その姿に胸が痛み、映像がずっと心に残っていた。「普通ではない暮らし」がそこにあった。

中学生になってから、貧困問題に関心を持つようになった。テレビや本インターネットから様々な事を学んだ。日本の国はとても裕福ではないが、大抵の人は平和で安全な暮らしができています。だけど他の国では、毎日の食べ物はもちろん、飲み水さえ充分ない国もある。そのため、生まれて数ヶ月で亡くなる子供もいる。不衛生な環境で暮らしているため、コレラや赤痢などに感染しやすく、五歳未満の子どもが毎年二十九万七千人も亡くなっているそうだ。

また、暮らしていくために小さい頃から働かされていたり、結婚させられていたりする子どももいる。自分と同じか年下の子ども達が、ひどい環境の中で大勢亡くなっている。そんな子ども達が同じ世界にいる、と思うだけで苦しくなる。私は調べれば調べるほど悲しくなって、一端手を止めたい。しかし、私はもうすぐ高校生になる。目の前にある問題から目を逸らしてはいけない。そう思い返し、それまで以上に貧困問題について考えるようになった。

貧困に苦しむ子ども達を助ける働きをする組織はたくさんある。ある有名な団体は、様々な募金活動や、食料や飲み水を送ったりするほか、現地で衛生面の環境整備をする働きも行っているそうだ。

昨年の世界のデータによると、二十二億人が安全に管理された飲み水を使用できていない。また、四十二億人が安全に管理された衛生施設を使用できず、三十億人が石けんや水の備わった手洗い設備を自宅に持てない。貧困問題と水の問題は深くつながっている。そのためその団体は、清潔な水をお届けするように井戸などの給水設備を作ったり、また、衛生的な生活が送れるように、トイレの設置や管理をしたり、石けんを使った正しい手洗いなどの衛生習慣を広めたりするなど、様々な活動を行っているという。

きっと生半可な気持ちでは、そんな大きな働きはできないだろう。貧困問題で苦しむ人達を笑顔にするために、この人達は全力で戦っているのだと感じた。すごいな、私もこんなことができたらいいな・・・そう思った。

「普通の暮らし」が普通にできるための働き。私もこの人たちのようなことがしたい。貧困、飢餓、水の問題は、SDGS（持続可能な開発目標）として世界で決めた十七項目に含まれている。私たちがみんなが向き合っていかなければいけない大切な問題だと思う。

今、新型コロナウイルスのため、世界中の人々が、今まで以上に手洗いやうがい徹底している。だが、それは水が自由に使える国のことだ。きれいな水や設備の不足でそんな対策さえできない人々や子ども達がいる。そのことを心に留め、自分の問題として忘れずにいたい。

私は、水があつて当然という生活を送ってきて、今まで必要以上の水を使ってしまった。それは私だけではないと思う。私たちの「普通の暮らし」は決して「普通」ではない。それが本当に「普通」といえる世界になるように、私自身も身の回りのことを見つめ直し、学び続け、他の人にも伝え続けていきたい。

## 水や自然を大切に

すさみ町立周参見中学校 一年 津村 悠愛 つむら ゆうな

私の住んでいる町には、川があります。その川では、魚が住んでいたりと、夏になると多くの人がこの川で泳いでいたりします。そして、この川の水が、農業用水としても使われています。

川の水は、水門を通って、水路に引き込ませてから田んぼに流れてきます。

この方法の良いところは、田んぼに植えている米や野菜、花などに川のきれいな水をあたえることができることです。私の住んでいる町は田舎だけど、きれいな水も自然もたくさんあることがこの町の良いところだと思います。

でも、この方法には少し悪いところもあります。それは、晴れの日が続いて川に十分な量の水が流れなくなると、この方法は実行できなくなってしまうところです。そんな時は、少し手間がかかってしまうけれどポンプで水をくみ上げて水路に流す方法に切り替えます。そうすれば、いつも通りに水を田んぼに流せます。

この方法は、ずっと昔から利用されているけれど、何年前から利用しだしたかなどは分かかっていないそうです。でも、技術が発展した今でも使えるような方法を考えた人はすごいなあと思いました。

川から水門や水路を通ってきた水は、野菜や花などに水を与える時に使っているそうです。

平成十年の日本の水使用量は、約九百億トンで、そのうち約三分の二である六百億トンが農業用水として使用されていることを、私は最近インターネットを見て知りました。でも、その六百億トンものは、自然界のシ

ステムと融合した形で利用されているそうです。水は、自分たちが生活していく上で欠かせないものだということは分かっていたけど、こんなにも幅広く農業で有効的に利用されているとは知らなかったのだととても驚きました。また、水田は、水の確保をしたり、大雨や台風の際の洪水を防いだりとダム役目も果たしているのです。水や自然などは貴重なものだとことを理解して大切にしていきたいと思いました。

また、水は畜産物の生産にも使用されています。私たちは、普段水を飲んだり野菜を食ったりしていますが、バランス良く食事をとるためにはお肉も必要になってきます。そしてそのお肉になる牛や豚、鶏を育てるときにも水が必要です。牛肉を一キログラム得るために必要な水はなんと約一万五千四百五十リットルもあるそうです。一回分のバランスのとれた十分な量の食事の中にはものすごい量の水が使われているはずで、牛一杯をつくるために使われる合計の水は、約二千リットルにもなるそうなので、水は本当に大切な資源だと思いました。ふだんの食事でも、水がどれくらい使われているかを考えておきたいです。

水は本当に私たち人間が生きていくうえでとても大切な資源です。もし無くなってしまうと、人どころか地球も危険になってしまうからです。私の住んでいる町の川の清掃活動に参加して川をきれいにしたり、水を節約して食べ物を残さないなどの努力をしていきたいです。また、今回インターネットで調べたことを家族や友達に話して、水を大切にできる世界をみんなで作っていききたいです。



## 一滴の力く命をつなぐく

和歌山県立向陽中学校 二年 三好 莉央奈 みよし りおな

ポチャン。静かな水面に落ちる一滴の水はユラユラと波を伝えていく。今、一分間に一人の子供が世界のどこかで水不足が原因で亡くなっている。その一滴があれば生きていたのかもしれない命だ。

水が無ければ、人は生きていけない。道端に生えた花も、海に泳ぐ魚も、自然に住む動物達もだ。しかし、そんなことは当たり前すぎて、気にした事なんて無かった。特に私は、「日本」で暮らしているからだ。

二〇一八年の九月に、台風二十一号が和歌山県を襲った。多くの家が停電になり、私の家族はマンションに住んでいたのが同時に断水になった。いつもなら、手を洗いたい時、トイレで水を流す時、お風呂をわかしたい時、いつでも蛇口をひねれば出てきたはずの水。この時、私は初めてどれだけ毎日水にお世話になっていたのかを、身にしみて感じた。たった、二日間だけの断水で済んだが、ふいに蛇口をひねった時、水がでてこなくて何度もびっくりした自分がいた。

地球には、七十六億人の人が住んでいる。しかし、いつでも安全な水を飲めるわけじゃない人が二十一億人もいる。これは、三人に一人の人が水道をひねって出てきた水さえも、そのまま飲むことができないということだ。私はその話を聞いたとき、水がいつでも手に入ることの凄さを、そしてあの台風の日のことが、サツと頭を横切った。たった二日だけであんなにうるたえていた自分自信が情けないと思った。世界には、毎日水に苦しんでいる人がいるのに、私はこのままで良いのだろうか。

私は、家で使っている水を無駄にしているか考えた。すると、私は風呂の残り湯をただ流して捨ててしまっていることに気がついた。何か活用できる方法はないかと思い、家の庭の水やりに使うことにした。バケツに水を入れ、お風呂と庭を行き来するのは、大変だったが、やり終わってから庭を見ると、芝生の上で水滴が太陽の光を反射してキラキラと光っていた。まるで、ありがとうと笑っているようにも見えて、疲れていたこともいつの間にか忘れていた。

日本は水に恵まれている。それは、先人の血のにじむような努力によって残された私たちの宝だ。水と共に生きていく私たちは、もっと水を大切にしないといけない。また、水の存在を当たり前と思っではいけない。水一滴には、約0.05ミリリットルが含まれている。一滴、一滴を日本中の人が守ることができたら、一滴で約六千リットルも集まる。これは、人が人間らしい生活をするために必要な一日の水の量が約五十リットルなので約百二十人がこれだけの水でもっと生きることが出来るといふことだ。

もし、この世に神という存在があるならば、草、木、花、虫、動物、そして地球をも生かしている『水』なのではないかと私は思う。一滴。その一滴には水の旅路が浮かぶ。それはまさに昔と未来を命をつなぐバトンだ。先人から受け継いだその一滴に命をたくすのは、私たちなのではないか。

## ダム役割について

すさみ町立周参見中学校

一年

石垣 いしがき結菜 ゆいな

ダムは、私たちにとってどのような役目があるのか、詳しく知りたいと思いついてみました。

ダムとは、大雨が降った時などに、川の水があふれたりしないよう、水の量を調整しているのです。反対に雨が降らない日々が続いたとき、川の水は、どんどん減っていきます。それと同時に、田んぼや畑に水が届かなくなりません。そこで、ダムに貯めていた水を流し、植物に水を送り届けることができるのです。ダムは、たくさんの役割があり、人間の命も植物の命も支えてくれているのです。

ダムの種類。例えば、重力ダムは、ダム自体の重さで水圧を支えてくれます。日本のダムの約九十パーセントはこの形式だそうです。アーチダム。ダムをアーチ型にわん曲させることで、両側山腹の岩盤に圧力を分散させて、水圧を支えるダムです。他にもロックフィルダムなど様々な形式のダムが活用されています。

また、多目的ダムは、供水調節や水の確保、水力発電など複数の目的を持つダムのことを言います。大きなダムはほとんどが多目的のために建設されているそうです。続いて利水ダムは、ダムの役割のうち、生活用や工業用、農業用、発電用などの水の確保の目的のために作られたダムです。最後に治水ダム。洪水を防ぐため、下流に流す水量を調整したり、河川維持の確保の目的のために造られたダムなのです。もちろんその他のダム以外でも、それぞれの特徴を生かした、沢山のダムがあります。

そこで、ダムに貯めた水や、川を流れる水の力を使って電気を作ること、水力発電と言います。水を高い所から低い所に向かって流して、その水

の勢いで、大きな水車を回すことから電気を作ります。勢いの強さで、作り出される電気の量は違います。水の勢いが強ければ強いほど、作り出される電気の量が増えます。だから、水の量が多く、高い所と低い所の落差が大きくなればなるほど、沢山の電気を作ることができると思います。勢いだけを利用して、電気を作るとは、すごい発想だなと思いました。

そして水力発電は、何度でもくり返して利用できます。電気を作るために使われた水から、川か海へと流れ、やがて蒸発して雨や雲に変わります。そして、再びダムへと戻っていくのです。

また、水を使って電気を作る水力発電は、石炭や石油、ガスなどのような限られた資源を燃やす必要がなく、それらを燃やすことで、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を発生することもないので、地球にも環境にも優しいシステムなのです。

また川の水から比べてみると、元からの川にある水が約十パーセント。ダム等で開発された水が約九十パーセントだそうです。このように今、川の水が見られているのも、ダムのおかげかもしれません。

そして日本は、世界的にみると雨が多く、年間を通じて水が豊かな国なので、水力発電に向いていると思います。これから先、環境に優しい水力発電が増えていくと嬉しいですね。後、もちろんダムがあっても水は大切に使うことが大事だと改めて思い、この作文を書いてみて、水だけではなく自然と向き合うことが、とても大事だと思いました。

## きれいな水をつくる人々

和歌山県立向陽中学校 二年

岡崎 咲おかさき さき

水は、生きていく上で必要不可欠です。今の日本では、蛇口をひねれば、すぐにきれいな水が出てきます。そのきれいな水は、色々な水質検査をしている人々によって、それぞれの家へと送られています。水質検査を行っている人や、浄水場で働く人々によって、私達は安全できれいな水を使えているのです。

私の父は、浄水場で働いています。働いている日が多く、仕事が休みの日でも呼ばれたりすることもありました。そして、大雨、洪水警報が出た時は、真夜中でも仕事に行かなければいけません。そのため、台風が来た時などは、父は家に居ませんでした。

私は、それがあたりまえだと思っていました。少し前になぜ警報が出たら仕事に行かなければならないのか、という事を聞いたことがあります。すると、父は、大雨によって川の水が濁ると、水の処理が難しくなるから、だと言っていました。

私は、台風が来ている時も、普通に水を使っていますが、そんな時でもきれいな水を使えるようにしてくれている人がいるんだなと思いました。水を使う時は、そんな事を考えないけれど、聞いてみると、大変な仕事だと思いました。

しかし、水道から出てくる水が濁っていると、本当に安全なのか不安になります。

数年前に水道水が濁っていたことがあります。それは、配水池から水を一気に流した事が理由でした。使っても大丈夫だが、飲むことなどはしない方が良く、と言っていました。本当に安全なのかという不安は大きか

ったです。次の日になると、水はきれいになっていましたが、最初は、まだ濁っていないか不安でした。そして、きれいな水を使えるという安心もありました。

濁り水が出た地域は、案外広く、一つの配水池から、そこまでの地域へ水を送っていたという事が分かりました。しかし、一つの配水池が止まると、広い地域で水が使えなくなってしまうと思いました。

私の父が働いていた浄水場は老朽化が原因で使われなくなりましたが、配水池として使われるそうです。それにより、和歌山市の浄水場は3つになりました。その内の1つの浄水場からの水が和歌山市の約4分の3の地域へ送られています。

私の父が働いていた浄水場は、95年間(大正14年から)使われていたそうです。薬をあまり使わず、自然の力で水をきれいにしていました。そういう施設を残していくのも大切だと思います。そして、その施設があった事を覚えておくことも、大切だと思います。

これから、配水池になります。浄水場、配水池、配水地も、多くの人々に安全な水を送る、という部分は、全て同じだと思います。

きれいな水を多くの人に送るために、浄水場で働いている人達は、交代しながら、24時間365日どんな時でも働いているということが分かりました。今まで、何も考えずに飲んでいた水も、働いている人のおかげで飲めていると考えると、その人達のおかげで生きている、とも思えます。

私はこれまで、水を飲む時、働いている人の事なども考えずに、飲むことがあたりまえだと思っていました。しかし、これからは、少しでも感謝の気持ちを持って水を飲むようにしたいと思います。

## 私が信じる水の可能性

海南市立下津第一中学校 三年

川乗 かわのり

楓菜 かな

生活に必ず必要な水は今、姿を変えて役に立っていると感じた。それは最近注目されている再生可能エネルギーの一つで水力発電という。水が豊富な日本では自然に害をあたえにくい水力発電を増やしてもいいと私は思う。

まず、水力発電のメリット、デメリットについて調べた。メリットは、「二酸化炭素などの温室効果ガスを排出しない」。温室効果ガスは地球温暖化の主な原因とされているガスである。メリットは他にも、「発電や管理のコストが安い」「エネルギー変換効果が高い」「再生可能エネルギーの中では最も安定的に発電できる」。「起伏が多い日本に向いている」。「電気需要の増減に対応して発電できる」。そして、デメリットは「降水量によって発電量が左右される」。「ダムは周辺の環境に影響を及ぼす」。「ダムの新造に費用がかかる」である。個人的に一番良いと思うのは日本の土地の特徴である起伏を最大限に利用できることである。日本には水をためてくれる山がたくさんある。だから、日本の良さを生活に取り入れ、世界的な問題である地球温暖化を水の力で遅くして勝つことができるのではないかと思った。

では、水力発電は日本の発電の中でどれだけ使われているのか。水力発電は約八パーセント。水力発電はダムの関係で今は少なく、太陽光発電などが増えている。ソーラーパネルなどで集める太陽光は尽きることがなく、しばらくすると電気代が少なくなる。水力発電と同じく再生可能エネルギー

ーなので便利で自然にとっても良い。だけど、私達の地域の山はソーラーパネルが増え、失うものがたくさんあった。一番の問題は木のぼっ栽である。木には根があり、なくなってしまうと今まで整備していた水の流れが変わってしまう。また、根や落ち葉によってできた草がなくなってしまう水のコントロールがきかなくなってしまう。そして土砂崩れを引き起こしてしまう。そうなるってしまうと、周りの人たちが危険になる。昔から作られている自然のバランスを崩してしまうと思わぬところから水が流れたりする。コンクリートで固めたから安心という考えや自分の土地だから何をしても良いという考えはやめてほしい。コンクリートにすると違うところに川ができてしまう可能性もある。大きな事になってしまいう前にソーラーパネルだけをたくさん置くという方法をやめて違う方法を考えなければならない。最近の台風はますます威力を増している。だから、長年の時を経てつくられた自然の形やバランスを崩さないよう、他の水力発電なども使用して守っていかなければならない。

現段階では、再生可能エネルギーにはデメリットも存在している。だから、それぞれの在り方を考えなければならない。水力発電はダムの影響で使われにくいのが、最近では小規模の水力発電もできていると知った。日本の川の特徴である急な流れを利用できる。しかし、国内にはそれほどない。なぜなら、最近やつと芽が出て育ち始めているからだそう。これから太陽光発電などの問題が出てきた時に活やくするのではないかと思う。普段から近くにたくさんあるきれいな水。これは世界を救える内の一つである。病気を減らす役目が一番目立つかもしれないが、このような水力発電のようにもつといういろいろな可能性があると私は信じている。水が尽きることは日本には関係ないが必要とする国がある。自然を壊すと困る動物がいる。私は水の力で日本を豊かにし、他の国を助ける未来があるのでないかと考えている。

## 水と共に生きる

海南市立下津第一中学校 一年 武田 菜緒

たけだ なお

地球には、陸と海の二つがある。この二つが占めている面積の割合は、三対七である。地球全体の七割が海、つまり、水にとっても恵まれている星である。そのため、地球は、「水の星」ともいわれている。

水は、植物、昆虫、動物、魚、人間、どの立場で生きていくのにもかかせないものである。

しかし、水に恵まれた星で水を利用し、よりよく生活するなかで守っていかねばならないことがある。それは、「後世にきれいで美しい水を残す努力をする」ということである。

水を利用して生きているのは、人間以外にも、動物や植物など多くのものたちがいるが、動物や植物などは、言葉を発することが出来ない。

しかし、人間はどうだろうか。人間は言葉を発することができる、人それぞれ多様な考え方があり、さらに、知識と技術まである。つまり、人間は地球上に生きているどんな生物よりも有利な立場であり、活用しなければいけない立場である。

だからこそ私たち人間が後世にきれいで美しい水を残すために、最前線に立ち、努力していく必要がある。

水を利用するにあたって大切なこと、私たちがしなければいけない最低限のことをそれぞれ提案したい。

まず、水を利用するにあたって大切なことを、二つ提案したい。

一つ目に提案したいことは、私たちが水道水を安心して飲めるように努めてくれている浄水施設の人たちに感謝することだ。この人たちがいなければ私たちは川や河川の水をそのまま生活用水として使わなければいけな

いことになる。そうなると今の便利な生活とちがってとても不便な生活になるだろう。

だから、私は日々安全な水を届けてくれている人に感謝しなければならぬと思う。

二つ目に提案したいことは水の恵みを感じる事だ。地球にはたくさん水があるが、水も「自然」のものであり、大切な資源でもある。資源には必ず限りがある。

そのなかで私たちは当たり前のように水を利用している。これは当たり前前のことではない。

きちんと水の恵みを感じ、大切に使用していかねばならない資源だ。次に、きれいで美しい水を残すために私たちが最小限しなければいけないことを提案したいと思う。

一つ目は、生活排水の改善について提案する。私たちは日々大量の生活用水を排出している。お風呂の残り湯、お米のとぎ汁、お皿を洗った流し水など、これらを大量に排出してしまうと、川や海が汚れてしまう。このような事をなくすため、お風呂の残り湯は洗濯に使ったり、お米のとぎ汁は植木や鉢植えにあげるなど、今の生活排水を各家庭で見直し、改善する必要がある。

二つ目は、必要な時必要な量だけの水を使用することである。先程言ったように水は大切な資源であり、限りのあるものだ。限りある資源を大切にすするため、必要な時必要な量の水だけを使うことを推奨したい。

「水の星」といわれるほど水に恵まれて生きる私たち人間、動物、植物、この星で生きるすべてのものが今日も水によって命を育んでいる。

これからも、たくさん命を育んでいくため、後世にきれいで美しい水を残していくため、「今」私たちに出来る最大のことをしていこう。

## 多忙な水

和歌山県立田辺中学校 二年 中村 柚木

なかむら ゆづき

「水とは、あなたにとつてどんなものですか？」と聞かれるとするならば、私は、「今日を生きるための、生活に必要不可欠なものです。」というように感じて答えるだろう。新型コロナウイルスの影響で、マスクがなくなり、ある時期トイレットペーパーも店から消えてしまった。そのことだけでも私たちは大騒ぎでもとも焦ったのだ。もし、日本から「水」という絶対に消えてはいけないものが消えてしまったら、どうなるのだろうか。考えているだけで恐ろしい。そんな水であるが、今回は「生活に必要な水」という面以外の水の姿について書こうと思う。私は小学校のときのある理科の授業を思い出した。

パンパンパンと私の眠気を吹き飛ばすような先生が手をたたく音で、私はハッとした。こだけの話だが、少し話の長めの先生の授業だったので、ボーンとしてしまっていた。だが、時々興味をそえられるような話もする先生だったので、私は特に嫌いというわけではなかった。手をたたいた先生は、「ここ、すごい大事やから。いいか、流れる水のはたらきは三つある。侵食、運搬、堆積や。覚えとけよ。」そう言った先生は次に、ある模型を持ってきた。それは、水のはたらきによって姿を変えた川の様子を表したものだ。今の時代に近づけば近づくほど、侵食作用により、川は深い谷のように変化していた。私は本当に驚いた。自分が普段飲んでいる水がたくさん集まると、こんなに大きな力がはたらくんだと思った。先生は他にも、水のはたらきによって変化した川の動画も見せてくれた。私にとつてほとんど考えたことなかった川について少し興味を持った時間だった。

このように、水には生活に必要不可欠であるということ以外にも大きな

力を持っている。ほとんどの人は、一度くらい川に行ったことがあると思うが、あの、川に足を入れたときの冷たさや、流れていく水の感触がたまらないだろう。私も実際に父と田辺市の秋津川にある奇絶峽に行ったことがある。ただ足を水につけているだけでリラックスできるような気がした。そんなふう私たちが癒してくれる川を造っていったのは水だ。私たちに想像することもできないほどの量の水だ。そしてその水たちは今も川を造り続けているのだ。私たちが川で遊んだり、泳いだりしているときも、大雨によって大きく姿を変えたときも。毎日、毎日、まるでアリのように侵食、運搬、堆積を繰り返して、働いているのだ。人の仕事には休みがあるのに、水には一瞬の休みもない。川造りの他にも、人の生活用水となり、雨となり、また水力発電としても活躍している。そんな多忙な水に私たちは敬意を払わなければいけない。そうしたこと意識すると、少しでも水の仕事を楽にするために、よく言う「水の無駄遣い」も軽減されるのではないだろうか。

人にも長所と短所があるように、水にも長所と短所はある。長所はすぐに出てくるかもしれないが、短所とは何だろう。それは水がごくまれに、でも確実にはたらく大仕事だ。つまり、津波だ。しかし、私たちの体が水を欲する限り、私たちが水と付き合い続ける限り、水の短所と縁は切れな。そのことをふまえ、水の短所に対してできる限りの対策を考え、水ときちんとした「お付き合い」をしなければいけない。

私自身も普段からこのようなことを考えているわけではないが、水は本当に偉大だと思う。水の、毎日の多忙な仕事を無駄にしないためにも、水に感謝して利用させてもらうことが重要だ。そうすると、水は短所を感じさせないくらいに、私たちに豊かな暮らしを与えてくれるだろう。

## 水と生きる

和歌山市立加太中学校 二年 原田 結菜 はらだ ゆな

「水の惑星」と呼ばれる地球。地球の表面の三分の二は水で覆われており、約十四億立方キロの水があるとされています。それだけを聞くと一見、潤沢にありそうに見える水。しかし、水資源は今、希少資源と呼ばれるまでになっています。

背景にあるのは、人間の生活様式の変化です。生活に欠かせない水。今後、その水の希少資源化は私達の生活に、どのような影響を与えていくのでしょうか。

宇宙から見える地球の青い姿。ですがその中で私達が利用出来る水資源はわずか0.01パーセントしかないと言われています。地球上の水の多くは塩分を含む海水で、その割合は九十七パーセント。残りの淡水も多くは氷雪、氷河の形態で存在しており、利用する事は出来ません。さらに、残りの液体状の水のうち、ほとんどは地下水として地中深くに浸透しており、人間が利用可能な淡水はたったの0.01パーセントしかないと言う事です。この0.01パーセントしかない貴重な水資源も汚染してしまえば当然利用が出来なくなります。これが、「水の惑星」地球で、水不足が発生する基本的な構造なのです。

その水不足を招いている最大の要因は人口増加。日本国内では人口減少という言葉も耳にしますが、世界全体では依然人口は増加しています。

そして、なんととっても日本の未来と世界の未来については、日本は高い経済力のおかげで、他国から水資源を仮想水という形で調達し、世界中でも豊かな生活を送ってきました。水資源を大量に必要とする牛肉や電化製品に囲まれた日本は、お腹いっぱい水を飲んで、消費が出来る幸せ

な環境です。ですがこれからはそうもいかず、アジア諸国を始め世界各国では水の消費量が増えてきます。これまでは、日本が世界からかき集めてくれた水資源も、世界の水資源の総量が増えなければ、確実に減少していきます。今、日本国内と海外の両面において、淡水の効率的な利用を追求する大きな必要性があります。

飲料水が豊富にある日本といえども、生活の豊かさを維持していくためには、世界の水不足と向き合わないといけません。

貴重な水資源を守るために、私達に出来ることは、出来るだけ水を汚さない事です。水資源の汚染の原因の一つに家庭から出る生活排水があります。たとえば台所排水では、食べ残しや、残りカスを流さない、汁物は残らないようにする、洗濯排水では、洗剤の使用量を守る、汚れの酷いものは手洗いする、糸くずフィルターをつけるなど私達に出来る事は沢山あります。

生きていく上で、生活していく上で絶対にかかせない水、自分達が使う水だからこそ自分達で守っていく必要があります。世界で汚水を飲むしかない国が沢山あります。日本の様にじゃぐちをひねればきれいな水が出て水道水を飲める国は世界で十五ヶ国ほどしかありません。日本の様にきれいで安全な水を世界へひろげられるように自分達が出来事をせいっぱいしていきたいと思いました。



## 色々な顔を持つ水

和歌山県立田辺中学校 一年 村上 すみれ むらかみ

水。あなたはこの言葉を聞いて何を思いかけますか。飲み水、雨水、わき水、地下水、温泉、海水、川の水など、私たちの身の周りにはたくさん水があります。

では私たちは、一日にどれだけの水を使っているのでしょうか。実は、一人あたり二〇〇から三〇〇リットルもの水を使っているのです。私たちが毎日たくさん使っている水道水は、川の水から取り入れられています。この川の水は浄水場できれいな水に浄化されます。その後、配水池に送られ、配水管を通じて、各家庭に届けられています。

それとは逆に、私たちが使った水はどこへ行くのでしょうか。各家庭で使われた水は下水道管を通り下水処理場に行きます。下水処理場では下水を消毒したりして、きれいな水になっています。そしてきれいな水はまた川や海にもどされています。

飲み水はじや口をひねるとすぐに出てくる水道水だけではありません。水道水以外に地下水が井戸水として飲まれています。地下水は場所によって味がちがいで、中には名水と呼ばれる地下水もあります。なぜ、浄化していないのに人が飲むことができるきれいな水になったのでしょうか。地下水は実は、雨水でできています。この雨水が、地球の何層にもなった土や砂や石をゆつくりと通ることによって、ろかされきれいな水になります。

ところで、地球上にどれだけの水があるか知っていますか。なんと、およそ十四億立方キロメートルもの水があるそうです。この水の表面積は地球上の約七十パーセントにあたります。そのほとんどは海水ですが、そのままでは飲むことができないので「真水」にする必要があります。川や湖

などの真水は二・五パーセントほどしかありません。そのほとんどが南極や北極の雪や氷なので、人の生活に使える水の量は、地球全体の〇・〇一パーセントぐらいしかありません。ですから、一人一人が協力して水の無駄遣いをしないように心がけなくてははいけません。

水の必要性は生活用水だけではありません。水にはいやし効果があります。例えば、公園にあるふん水や、緑に包まれた自然の中の川や滝、最近では水と光のショーなどもあります。

しかし、水はすばらしいことばかりではありません。海や川の水は時に、きばをむくことがあります。例えば、東日本大震災です。東日本大震災では、地震や津波などにより、一五、八九四人もの命がうばわれました。そのうちの九十パーセント以上の一二、一四三人は大津波による溺死だったそうです。

他にも台風や大雨によって、川のはんらんや、高潮、土砂くずれなどの被害を受けています。

このように、水にはたくさんさんの顔があります。人間が生きていくために必要不可欠な水ですが、時に水はたくさんさんの大切な命をうばいます。私たちは、水について考え、環境を守るため少しでも協力してできることを行なうことが大切だと思います。

## 紀の国の農業を支える用水

和歌山県立向陽中学校 二年 矢倉陽斗

やぐらはると

僕が住んでいる紀の川市では、桃や柿など果実や、玉ねぎやじゃがいもなどの野菜、そして米などの穀物といった様々な農作物の栽培が盛んに行われています。しかし、この土地が昔から農業が盛んで、肥沃だったわけではありません。

かつて紀ノ川の北側の地帯はたびたび干ばつに襲われ、水の便が悪い土地でした。その土地は紀ノ川の水面よりかなり高い位置にあるために、川の水を用いて農業をするのはとても困難でした。いくつかため池はありましたが、池の水には限界があり、かろうじて農業はできたものの、気候により水量が左右されていきました。そのため農民の間で水不足による争いがたびたび発生していたそうです。そんな環境のため、新たにここに田畑を開墾するにはため池だけではたりませんでした。しかし、紀ノ川の流れが生み出した河岸段丘は簡単に用水路が造れるような場所ではありませんでした。紀ノ川は日本でも一、二を争う大雨の地帯にある大台ヶ原を水源としているため、かつては氾濫のたびに流れをかえてしまう暴れ川だったそうです。そのため、土地が紀ノ川よりも高い位置にあることも理由に流れが変わりにくい紀の川の上流から水路を伸ばさなければなりませんでした。しかし、たとえ上流から水を流せたとしても、河岸段丘には中小河川が多いため、用水路でより多くの土地を潤すにはそれらの河川は邪魔となっていました。

僕は、小学四年生のとき、紀ノ川の北側の地帯を流れる小田井用水を見学に行きました。小田井用水は橋本から岩出までおよそ三十キロメートルにも及ぶ水路です。僕は先生からこのあたりが昔、干ばつに襲われていたことやこの小田井用水の建設が紀の国の農業にも、土木工事にも大き

な革命をもたらしたことを教えてもらいました。小田井用水は紀州藩第五代藩主の藩命を受けた大畑才蔵が開削に取りかかりました。彼は紀ノ川の上流に取水口を求め、用水路の勾配を水平に近くすることで河岸段丘に水を流れさせることができると考えました。そこで彼は現在の土木工事と通じるほど開削する水路の高さ、幅、勾配を精密に示した設計図を作成しました。この設計図をもとに、各地で一斉に土木工事を行ったため、第一期工事を二年足らずで終えることができました。また、この用水路には、水盛台を使用した水平の測定や、中小河川に水路を通すため、伏越や渡井がそれぞれ十ヶ所余り設けられるなど江戸時代としては最先端技術が活用されています。

小田井用水ができたことにより、千ヘクタールを超える水田が新たに開発され、河岸段丘は県内有数の田園地帯へと姿をかえました。二〇十七年には世界かんがい施設遺産に登録され、大変注目されました。三百年間も小田井用水は紀の国の農を支え続けてきました。そして今でもなお現役で六百ヘクタールの土地を潤しています。

大畑才蔵の功績によって、今この地があります。紀の川市は現在農業の中でも特に果樹栽培がさかんで、桃や柿、イチゴなどは全国的にも有名です。今、僕たちは生活する中で「農業」の恩恵をたくさん受けています。地元の野菜や米や果実を食べて生きています。僕たちは常日頃、用水路があるのが当たり前になり、大畑才蔵がいたからこそ紀の国の「農業」があったことを忘れがちです。しかし、小田井の歴史を知るにつれ、大畑才蔵の知恵と技術と和歌山への愛着の大きさに驚かされます。小田井用水の恩恵を受けながら過ごしている僕たちは、彼の功績をもっと深く知り、人々に伝えていくことが大切だと思いました。

## 私達にできる事

和歌山県立田辺中学校 一年 山中杏華

やまなか ももか

私達人間が生きる上で必要である水。日本では、蛇口をひねるときれいな水が出てくる。それを手洗いや洗濯、入浴時など様々な事に用いる。この当たり前と感じている事が、アフリカ等の過疎地域ではどうなのだろうか。茶色に濁った水をやっとの思いで手に入れ、それを口にする。その水が原因で毎日数百人の人が亡くなってしまふ子供。このような世界がまだ地球には存在している。

こうして考えてみると、水はとてもありがたいものだ改めて感じる。また、それと同時に汚れた水が原因で亡くなってしまふ人々を救いたい、とも思う。亡くなる人を減らすために私達にできる事には何があるのだろうか。それを考えるために、インターネットや本などで、水について調べてみた。その中でも印象に残ったものを取り上げる。

一つ目は、世界での飲料水についてだ。日本で暮らしていると実感がわからないが、世界の二十九パーセントの人は十分に安全だと言える飲料水を利用できていないそうだ。さらに、そのうちの二パーセントの人は地表水をそのまま飲んでいるらしい。私は、この記事を見た時、私達の常識が通じるのは、「日本」だけなのだと改めて痛感した。

二つ目は、「日本は水を大量に使用している」という問題についてだ。これは、食糧や日用品等の生産時に使用される水を含めると、日本人は一人あたり三十リットル以上の水を使用しているそうだ。その原因の一つとして、日本の食料品は外国からの輸入に頼っている。つまり、その輸入した食品に使用した水も輸入しているという考え方ができるのだ。よって、日本が食料自給率を少しでも高めることができれば、水不足の国々にも水が

行き届くかもしれないと考えられる。私は、まだ自分で野菜等は買わないが、親と一緒に買い物へ行った時には、なるべく地元で作られた物や国内産の物を選ぶよう、親に声をかけようと思った。そうすることで、苦しむ人々が減るかもしれないからだ。

このような二つの事例を取り上げたが、共通して言える事は、「日本人は水を使い過ぎている」という事だ。私達が簡単に手に入っている水。この水がどれだけ貴重なものなのか、どれだけありがたいものなのかを改めて一人ひとり考えてほしい。そして、考えるだけでなく、水不足、汚れた水が原因で亡くなる人々を救うために、私達にできる事は何か。地産地消に取り組んだり、お風呂の残り湯を洗濯に使用する等、簡単な事でも良い。少しの節水だけでも、多くの人が取り組めばとても多くの水が余る。その水が世界中の全ての人々にまで届くとどうだろうか。地表水をそのまま口にする人や、長時間かけて少量の水を手に入れる子供。こんな人々を減らすことができるのだ。

私はまだ学生で、政治家のように国民を動かしたりすることはできない。でも、少しの事でも積み重ねていけば、やがて大きくなる。私達にできる事に毎日全力で取り組む。世界中の人々が幸せに暮らすことができるように。

## 命の水

和歌山県立田辺中学校 三年

吉田 彩良 よしだ さら

祖母の家には、古い井戸があります。祖母が生まれる前からあったそうで、百年以上はたっているらしいです。直径一メートル、高さ六十センチメートルの円柱です。地下は七メートルの所に水がきています。昔は、屋根があり、滑車をつけて水を汲み上げ、生活用水として使っていたそうです。夏は冷たく、冬は暖かい井戸水は、冷蔵庫や、洗濯機が普及されていない時代に、重宝されたのでしょうか。祖母も子供の頃、スイカやトマトを井戸水で冷やして食べたそうです。

井戸のことを書いていて、中村哲さんの事を思い出しました。中村さんは脳神経内科の医者でありながら、水の重要さに気づき水があれば、多くの病気と帰還難民を助けられ、問題を解決できると確信をもち、九州出身であったため、山田堰を参考にして、井戸を掘り、水路を作り、多くの難民を助けた方です。残念なことにアフガニスタンで銃撃され、亡くなりました。まだまだこれからだと希望をもっていたと思うと、割り切れない気持ちになります。もっと、世界で日本人として輝いてほしかったです。

私は、美しい富田川の下流にある地域に育ち、美しく、圃場整備された田んぼが続き、五月には、青田の広がる風景があたりまえのように見えています。川から流れる美しい水のおかげだと思っています。おいしいご飯を毎日いただけることに、感謝しなくてはなりません。

時々、祖母と散歩をします。河口に行った時、祖母が子供の頃の事を話してくれました。この河口では、昔上質な青のりがとれて、三メートル弱の木舟で熊手の様な道具で青のりを、すくいあげて舟にのせそれを、荷車に移して家まで運んだそうです。

そして、小石や、ゴミを取り除き、大きな桶で洗ったそうです。ここからが、井戸の出番です。青のりが取れるのは、冬でも一番寒い冬の時期です。でものりを洗う水は、お湯の様に温かかったそうです。祖母のお母さん達は助かったらと思うました。

冬の風物詩でもあった青のりの収穫風景が消えてから、半世紀以上になります。水道が普及して、家庭用水が川に流されて、美しい水でなければ育たない青のりは、消えたのです。

今では、広い河口にはあしが茂り、水鳥が浮かんでいます。きれいな水の流れる浅瀬には、ボラや鯉も泳いでいます。

この美しい環境を私達は、大切に守っていかなければと思いました。

## 第42回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第44回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

### 1 応募要領

- ①テーマ・・・「水について考える」（題名は自由）
- ②対象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）
- ③原稿枚数・・・400字詰め原稿用紙4枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。  
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。
- ④あて先・・・和歌山県庁 地域政策課  
〒640-8585 和歌山市小松原通1-1  
TEL 073(441)2423
- ⑤応募期間・・・令和2年7月3日締切り
- ⑥版权等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。  
○応募作品の著作権は、主催者に帰属する。  
○応募作文の返却は行わない。

### 2 応募結果

応募 学校数	応募 総数	学年別		
		1年	2年	3年
校	編	編	編	編
6	351	103	176	72

### 3 審査

和歌山県審査において、優秀賞3編、入選5編、佳作10編あわせて18編の入賞作文を決定。

（協力 和歌山市中学校国語教育研究会）

### 4 表彰

#### (1) 賞および賞品

賞	賞品
優秀賞	賞状、図書カード
入選	賞状、図書カード
佳作	賞状、図書カード

#### (2) 表彰式

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大や夏休みの期間短縮を受け、表彰式は中止となりました。

# 8月1日は 水の日

水循環基本法で、8月1日を「水の日」と定めています。

8月1日から8月7日は「水の週間」です。

私たちの水のこと、考えてみませんか。



ポケットモンスター

No.134 シャワーズ

タイプ みず とくせい ちよすい

© 2020 Pokémon. © 1995-2020 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc.  
ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・ Creatures・ゲームフリークの登録商標です。

日本の水って  
イイネ

## Wonderful Water of Japan

日本の良質な水は、人々の努力による水循環マネジメントに支えられています。

「水の日・水の週間」関連情報はウェブサイトへ

<http://mizunohi.jp>



【主催】水循環政策本部、東京都、水の週間実行委員会ほか 【後援】文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省ほか  
【水の日・水の週間】に関する情報は各ホームページへ。（首相官邸、国土交通省、水の日・水の週間）



「健全な水循環」  
ロゴマーク

2020ミス日本  
「水の天使」  
中村 真優

